

## 脳神経外科 この一年

脳神経外科医長 徳光 直樹

## 診療スタッフ

平成20年同様に佐古院長・相澤診療部長以下、わたくし徳光と和田医師・白井医師の五名で診療を開始した平成21年の脳神経外科でしたが、3月いっぱい相澤診療部長が静岡県下の病院へ副院長として異動されました。平成12年4月からの丸9年間、当院でご活躍いただきました。大変お疲れ様でした。一方、当院で卒後研修を終え、網走脳神経外科病院で研鑽を積んだ榎谷将偉医師が当科に戻り、3月より勤務しております。くわえて12月からは2年目研修医の浅野目 卓医師が平成22年3月まで脳外科診療に参加してくれました。

## 診療状況

外来診療は、原則午前中のみで月曜～金曜まで2診制で行っております。また火・木曜午後には脳ドックを開催しております。

入院病棟は3階東病棟に33床で、その他にくも膜下出血術後や重傷頭部外傷の患者はICUで急性期管理をさせていただきました。年間の総入院患者数は519名で、平成20年が520名でしたのでほぼ同数でした。なお入院患者の内訳は、急性期脳卒中が306名(59.0%)、頭部外傷78例(15.0%)で、例年大きな変化はありません。脳腫瘍は15例(2.9%)と前年と比べやや増でした。

手術総数は129件で、前年比15件減でした。おもな手術の内訳は以下の通りで、前年と比べ脳動脈瘤症例が7例少なかったことが、総数に影響していると思われませんが、その他血行再建術や頭蓋内血腫・脳腫瘍の手術など、総じて例年通りの症例数と分布思われます。

入院患者を地域別に見ると最多は名寄市内(含風連)のかたで206名(39.7%)、つづいて士別市・剣淵町のかたが152名(29.3%)を占めておりました。この傾向はここ十年来大きな変化はなく、士別救急管内の患者が25～30%、枝幸が10%弱、美深が5～8%、下川が5%弱となっております。なお平成21年の新たな傾向として、紋別市内の病院から患者搬送依頼が増えた印象があります。平成20年には1例だった紋別市からの紹介入院が、21年には7例に増加しており、これには遠軽厚生病院の脳外科人員削減が強く影響しているものと思われる、今後もこの傾向が続くのか否かしばらく様子を観る必要がありそうです。急性期脳卒中症例で、直接自宅か元来入居している老健施設に退院できた症例は55%にすぎず、残り45%のうち地元病医院に転院したのはわずか20名たらずで、それ以外の相当数が名寄市内のいずれかの病院に慢性期の療養入院をお願いしている現状です。療養先の慢性的な不足につき何とぞご理解いただき、周辺市町村の医療施設には今まで以上のご協力をお願い申し上げます。

総数129件 (定期手術:67件, 臨時手術:62件)	
脳動脈瘤 45件	脳腫瘍摘出術 7件
開頭・clipping 37件	微小神経血管減圧術 1例
coil塞栓 8件	頭蓋内血腫除去術 7件
脳動静脈奇形塞栓 1件	慢性硬膜下血腫穿頭術 27件
脳動静脈奇形摘出 1件	水頭症手術 10件
血行再建術 24件	頭蓋形成術 7件
CAS 14件	減圧開頭術 0例
CEA 6件	脳室ドレナージ術 1例
PTA(PTR) 6件	頸椎前方固定術 0例
EC-ICバイパス 0件	その他 1例